

第3回 熊本市スポーツ推進審議会

開催年月日：令和6年（2024年）10月16日（水）

開催時間：午後14時00分～午後15時30分

開催場所：熊本市役所議会棟2階 予算決算委員会室

【出席者】

■委員

所属	役職	氏名	備考
熊本大学大学院教育学研究科	教授	坂下 玲子	会長
熊本市スポーツ協会	副会長	福永 政民	
熊本市スポーツ推進委員協議会	副会長	漆畑 幸夫	副会長
熊本市文化スポーツ財団 経営企画課	課長	村上 菜穂	
熊本県社会福祉事業団 事業課 熊本県障害者スポーツ・文化協会		中尾 直道	
スポーツクラブ&スパルネサンス熊本南24	支配人	村田 一基	
ロアッソ熊本スポーツクラブ	理事	首藤 崇	
熊本市小学校体育連盟		中山 和臣	
公募市民		藤瀬 賀子	

※敬称略

■事務局

熊本市

スポーツ・イベント部 金光部長

スポーツ振興課 岡島課長 岩下副課長 大場主幹 大野主幹 詫間主査

松井主査 源主査 下長主事

【議事要旨】

(1) 第3次熊本市生涯スポーツマスタープラン素案について

(会長)

それでは、これより私のほうで議事を進めてまいりたいと思いますが、円滑な議事進行につきまして、委員の皆様の御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事(1)になります。

第3次熊本市生涯スポーツマスタープラン素案について、事務局より御説明をお願いいたします。

(事務局)

「第3次熊本市生涯スポーツマスタープラン素案について(資料1)」説明

(会長)

ありがとうございました。

市民アンケートやこどもアンケートなどの結果から、今後の具体的な取組内容が提示されていきました。ただいま説明いただいた内容に関しまして、ご意見ご質問等を頂戴したいと思います。スケジュールの説明もありましたけれども、今回いただいた意見を反映して最終案に持っていきたいと思います。ぜひ、それぞれのお立場からご意見をいただければと思います。

(委員)

今のこどもたちを反映する回答がまさにここにでていると感じたところです。

二極化の中で、実際運動に親しむこどもたちにこれまでフォーカスを当てていた部分を、運動に親しんでいないあるいは好きになれていない、いわゆる経験の少ないお子さんたちにフォーカスを当てる再構築を考えているところで、これまでは、各小学校にも部活動がございましたので、各部活動、例えばサッカーやバレー、バスケの部員がそれぞれのブロックの中で、懇親も含めた親善試合を行ったりしていきながら大会のサイズを調整しつつ、試合を通して仲間づくりや体力向上を行ってきました。ところが、これまでは全校であったのが今年度に関しましてはサッカーで参加した学校が2校、それから野球は全部社会体育へ移行、バスケも2校、バドミントンはなくなりました。水泳と陸上はかろうじてイベント的に希望する学校や個人が参加するようなシステムにならざるを得ないという状況であります。そこで、具体的にはまだ進んでないですが、在り方を考え直そうとスタートしているところで、ここにあるように、ターゲットとしては上手ではないからスポーツを行っていないお子さんたちがスポーツを行わない理由にあげていますが、こういうお子さんたちがスポーツっていいなと思うきっかけになるなど、遊ぶ場所ということも、公園や広場、学校など、どこにも所属していないお子さんたちを広く平等に機会が提供できるようなあり方に変えて

いこうという考えを進めているところです。なので、我々が進めていこうとしているものが、ある意味このアンケートにあって、有り難く背中を押していただけるような形になるのかなという風に思っております。

（事務局）

貴重なお話をありがとうございます。

今回のマスタープランを整理させていただきまして、まだまだ取組として足りてないのものがたくさんあると認識しておりますので、まず理念をしっかり固めて、今行えている取組、今後必要になってくる取組というのを、ぜひ御意見等も賜りながら、やっていきたいと思っております。また、60 ページについて、前回公園と道路等がこどもたちの遊ぶ場になっているということで、道路やオープンスペース等の活用促進ということで、庁内会議のほうでお話をさせていただき、都市建設局と連携し、話を進めているところでございまして、こどもさんたちが身近に活動できる場の確保というのは非常に重要ですので、連携する取組も今後御意見等も頂きながら整理を進めていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

（委員）

先日佐賀で国民スポーツ大会があり、全てではないですが、見事に歩道が整理されていきました。あれだけ広い歩道、そして自転車と歩行者とランニングできるような幅がとってあるととても安全安心ですし、通勤通学も楽しいだろうなと思いました。考えていただきましたように、こどもたちが身近にアクセスでき、住宅周辺に安心して遊べるような公園等が活用できるといいなと思っております。インクルーシブな視点、あるいはユニバーサルな視点でも、これから大事な視点になっているのではないかと思っております。

（会長）

ありがとうございました。

今後のスポーツ振興のためには、様々な部局が一緒に関わって進めていく必要性がますます増えていくと感じます。多様な委員が集まっている会議となっておりますので、どうぞご意見のほどお願いできればと思っております。

（委員）

46 ページの障がい者スポーツについて、知っていて関心があるが 12%、よく知らないが関心はあるが全体的に 60.7%、よく知らない関心ないが 40% 近くあるので、これは広報をやはりしっかりするべきだということが分かります。熊本市のイベントに何度か行ったことがあります。場所が狭く、ボッチャなどの競技が重なっており、車椅子バスケットなど、コートを使って行わないと楽しさが伝わらない。先日、えがおスタジアムで体験会を行いま

した。ボッチャやボートボールなどがあり、車椅子だと車椅子バスケやテニスがあり、車に乗って打ってみるにしても車の操作の扱いが難しく、ただボールを打つだけになります、楽しいなとか、難しいなという、コミュニケーション取りながら行うことで、僕もちょっとやってみようかなという風になる子もいました。こどもの義足を使った体験を行うと、こどもたちが一生懸命になり、これからもやりたいという思いが出てくる。本当の意味で彼らがやりたいと思うようなことをできるようにするためには、小学校の体育館や中学校の体育館など、しっかりと場所を借りてやってほしいと思っています。各種体験するというのもすごく大事なことで、広報も大事だということをしつかりお願いしたいということと、もう一つ、人材の話です。スポーツを支える人材を育成するとありますが、余りにも高度すぎるような書き方で書いてある。こういう資格をとりたくなったときにちょっと躊躇しちゃうような言葉が入っている。障がい者のスポーツに関する資格は、初級なら 3 日間で取得できます。できれば熊本市で養成をしてほしい。実際に熊本市の初級のスポーツ推進員は 50 名 60 名いてない。幅広い人材を確保したいのであれば、熊本市でも養成講習をやれば、人はすぐ集まります。また、スポーツリーダー研修でも障がいに関する免許があることや、こういう免許の取り方がありますなど、年 1 回だけでも熊本市にて行っていただくいいかと思います。

(事務局)

貴重な情報ありがとうございます。

いろんな場で障がいを持った方もスポーツができる環境をどうやったら確保できるか、また、場所やその予約の方法など、そういったところも十分配慮しながら考え、この計画をもとに、いろんな御意見頂きながら進めてまいりたいと思います。また、先ほどご紹介頂きました指導者の確保、研修につきましても、我々もなかなかそういった情報も知らないというところで、先ほどの興味があるけど知らないというところにつながるのかなと思っております。ぜひともそういった情報も我々から発信をさせていただきまして、アプローチすることも取組として考えさせていただきたいと思います。また担当課の障がい福祉ともスポーツというところで、さらに連携してほかに何か取り組めることがないかということも考えていきたいと思いますのでその辺りの助言等を頂ければ大変ありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(委員)

体育館の中でも障がいのある方への対応できる方がいると全然雰囲気が違うし、障がい者の方も行きやすいと思います。

(会長)

貴重な情報をありがとうございました。今後の共生社会というものを目指す中でとても大

事なことかと思ひます。ほかの委員の皆さんからもご意見等をいただければと思ひます。

(委員)

今後のところていうと、概要版などが作られていくと思ひますが、例えば小学生へアンケートをしていますので、小学生とかにも伝わるようなフレンドリーな形での冊子とか、そういったものを作成頂いて、こどもたちがスポーツをすること、みること、支えることなどにふれあつていくことが熊本にとって、また自分自身にとって、どうプラスになっているのか、がキャッチできるような、身近な冊子を作つていただけたらすごくいいなというふうに思ひております。また、読んだ子たちがスポーツを自分の中に落とし込んでちょっと触れてみようかなとなつたときには、私たちみたいな団体がそういう受け皿や場として、スポーツと一緒に支えて、指導者の育成やボランティアの場を提供できることもありますので、その辺はこれからの事業の策定の中で、一緒に市役所の皆さんと組み立て、身近に提供できるものがあれば進めていければというところで、こういった計画が身近にキャッチしていただけるような、そういったものを、挟んで頂けると次の形が私たちもとれるかなと思ひます。

(事務局)

中身を知つていただくということが最終的には 1 番重要と思ひており、特にこどもたちというものがずっとこの会議でキーワードとして出ており、皆さんのスポーツの裾を広げる上でやはり欠かすことができないこどもたちに対して、分かりやすい形で概要版のもう少しかみ砕いたようなものを教育委員会と連携し、こどもたちにもタブレット等で御紹介できるような工夫を検討してまいりたいと思ひます。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございます。今後周知の仕方等もいろいろ工夫できるのではないかなと思ひておりますのでよろしくお願いいたします。

(委員)

自分自身は朝からアクアドームのほうに泳ぎに行つており、開場時間になればシニアの人たちがたくさんいて、毎日みなさん努力をされているのだと思ひます。また、こどもたちの小体連の話がありましたが、小体連水泳大会というのがずっとあつており、参加人数は社会体育になつたおかげで部活のクラブが極端に減つております。そうしたことや、大会の小学校、中学校、高校、社会人、マスターズという大会がありますが、中学校になると、女子の参加選手数が減少しているといった問題が出てきています。それと、協議会の中で 7 月にアクアドームで障がい者の方との連携した大会を昼休み時間に行い、それを児童たちがきて声援を送るいい大会があります。あと、一つお願いすることはアクアドームが夏場 50 メートルのプールは 8 月まで、冬はスケートが 12 月からということで、その 2 か月間がフロ

アになってしまう関係でちょっともったいない気がします。どうにかできないかと毎年お願いしているところです。誰でもがスポーツを楽しめる場所ということで、白川とかでサイクルロードがありますが、皆さんもまだ御存じでないような感じなので周知徹底をしていかなければと思っております。

（会長）

ありがとうございました。

環境面のご要望等もあったかと思えます。

（委員）

例えば、私たちの校区でもそうですが、小学生のクラブは大体社会体育のほうに移っており、私のところは五つくらい社会体育に移っているのですが、サッカーや野球、バスケは今人数が少なくなっております。学校のクラブのころはたくさん活動しておりましたが、小学生の運動の集まりというのは、だんだん人数が少なくなっていると思います。施設はたくさんありますが、活用状況というのはなかなか少なくなっているのかなと思っていますし、PTAも含めてこども会の活動については、昔は大体こども会の働きかけが幾らかあったと思いますが、今は40～50ぐらいしかなく、校区自体の運動活動がだんだん少なくなっている。それを私たちも改善するために、ニュースポーツをできるだけ活用し、できるだけこどもさんや高齢者を引き込むような活動を展開しているところで、そういう場を設けて地域の人たちの運動推進を図っている現状です。たくさん施設ありますが、東区には大きな施設が少し遠いところにあるためなかなかアクセスが厳しいところがありますので、近場の運動施設などを利用し、大人からこどもまで運動によるつながりを持つていくための取組を少しずつ行っているところです。

（会長）

貴重な情報をありがとうございました。

地域、コミュニティというところで、どのようにこどもスポーツや高齢者のスポーツをつないでいくか、活性化していくのかというのも大事な視点と思い聞いておりました。

（委員）

小学生の部活動の地域移行については、部活動を離れクラブにも移行しないというこどもたちもたくさんいて、小学生の体力低下傾向が見えてきたというような話があります。そういった児童たちの体力向上の支援をしなければいけないという話をしていたところ、ちょうど新聞に小学生の体力が60年前よりも一部低下していたというような記事が載ってまして、やっぱりそうだったかっていうふうに思ったところでした。この基本方針の中に、スポーツ協会や総合型などとの連携とありますが、これが熊本市の中で総合型クラブでいい

ますと、クラブ自体がないというエリアもたくさんあるので、今後のこどもたちのスポーツ環境、スポーツのきっかけがなかったっていう回答がアンケートにもありましたが、身近なところでスポーツに親しむ場所がないというようなこどもたちが増えていくのかなと考えました。そういうところを満遍なく、地域格差がないように、こどもや大人も運動を習慣づけていく、継続し、その人の生活の一部にしていくというためには、そういう受皿的なものもやっぱり併せて底上げしていく必要があるなと思いますが、その辺の何か働きかけや今後どういうふうにするかがもしありましたらそこを教えていただきたいのが一つと、白川チャリンぼ道などを整理しているとありましたが、そういうふうに、自転車の利用を促進するために、道路をきれいに整えられたりしているところがあって、私は単純に、自転車で乗られる人たちの事故を防ぐ等そういう視点でしか見ていませんでしたが、サイクリングというスポーツという視点でも、そういった安全に自転車で走れる場所があれば、そういう取組もできるなというふうに思ったところでした。

今からいろんなところとそういった連携をしていきますといった話だったのですが、例えば今後自転車道の整備とかということ以外に運動スポーツに取り組めるようなスペースの計画とかでこのあたりと連携して作っていかうという計画に何か発展していくのかどうか、その辺りをお尋ねしたいです。

(事務局)

1 点目の総合型地域スポーツクラブ、地域で身近にこどもがスポーツに触れ合える機会ということで、実際熊本市で準備中も含めて 23 の総合型地域スポーツクラブがございます。傾向としては熊本市の中で、中心部になく、植木城南周辺は立ち上がっているというところで、傾向としては、もともと地域のつながりが強いところで地域が受皿となり立ち上げていくということが現状で、中心部のほうはどちらかといえばクラブチーム等がたくさんあるということも一つ理由としてあるのかなと思います。

総合型地域スポーツクラブは、やはり地域の住民の皆さんが主体となりますので、そこを掘り起こしていくというのは当然必要かとは思っております。とはいえ、なかなかそのハードルが非常に高く、我々も人材がどんどん減っていく中で、ちょっと手をこまねいているのが正直なところでございます。とはいえ、今後どんどんこどもさんたちのスポーツの機会が減っていくことがないよう、まず理念という形で整理をさせていただいたところで、具体的な取り組みは持ち合わせておりませんが、同じ問題意識を持って今後取り組んでいきたいと思っているのが現状でございます。

あと 2 点目の自転車道の活用など他部局との取組についてですが、公園の数としては、比較的熊本市は他都市と比べて非常に多い状況にあり、その中でルールや活用の仕方等に課題があるというところは御指摘を頂いておりますので、我々もスポーツ部局として他部局には今後アプローチしていきたいと思っています。我々もそういった障がい者の部門であったり障がい者スポーツであったり、都市局でのハード整備であったりを毎年この計画に

基づきながら意見交換をさせていただいて、検証していきたいと思っております。

（委員）

ありがとうございます。

その辺の総合型との連携とかですね、そういったところが格差のないようにやっていくと、マスタープランのほうも熊本市一円で、実施率等が高まるかなと思ってお尋ねいたしました。

（会長）

ありがとうございます。委員の皆様から出ておりますハード面の環境とソフト面の環境を両面から横串で進めていくということがますます求められるのかなと思いました。

（委員）

34 ページあたりのスポーツ実施率のところ、今後やってみたいスポーツにジョギングや散歩があったかと思いますが、パイとしては大きいと思いました。当社だと、定期的に従業員向けのスポーツイベント、例えばアプリを使った食事の管理や、今だとアプリを使ったジョギングや散歩をする際に、最初に何キロ走りますというのを宣言しそれを継続するようなイベントがありますが、この参加傾向を見ていくと、ジョギングや散歩となると急に女性スタッフの参加率が下がります。ヒアリングした結果、やはり日中働いていて、運動する時間をつくろうとなると、朝イチあるいは夕方から夜になる。そうすると環境や安全性の部分で不安が大きいというデータが出ております。当然ハード面の整備はしていただいている中で、ソフト的なところの安全性を担保する策のようなものはあるのかなと思いました。以前、私が広島に行ったときに、東広島市で、こどもの安全を守る方を自治体で募集しており、登録すると、ジャケットのようなものが配布されて、こどもたちの登校時にはジャケットを着て、外で挨拶等をして、安全を守っている、安心な環境を整えるような活動をされていました。そのため、現在ジョギングしている皆さんにそういった登録をして、ジャケット等を着て走っている姿を見ると、安心なのかなと。健康アプリも普段ジョギングしている皆さんが、大体この辺走っているみたいなのが分かったと安心ではないかと思いました。

（事務局）

実際公共のほうで行っている安全性というところで申し上げますと、例えばスポーツ施設にウォーキングジョギングロードのようなものを施設内に整備をしております、一定の施設内で走る場所というのは確保しておりますが、暗がりが多いところに街灯を設置等そういった細かいところまではなかなかスポーツという面でなくどちらかというと防犯というところで、本市的には防犯灯みたいな形でやっているところでございます。

もう 1 点目のアプリについては、健康アプリが熊本市のほうで今やっていますので、そういった利便性の高いところで連携する機能ができるかというのも担当課のほうへ確認して

みたいと思います。

(事務局)

1点目の安全面の件ですが、一つの事例として、多分託麻北だと思いますが商工会議所と学校と地域が連携をして「ちょこぼと」を仕組み化されており、青のビブスを着て登下校中にパトロールをするとその活動日数に応じてポイントが得られ、セブンイレブンさんが協賛をしてセブンイレブンさんでジュースをくれる仕組みがあります。やはり自治会やPTAなど、いろんな団体との連携というのが必要と思っています。

もう一つの事例でいくと校区にある社協さんがベストを着て、犬の散歩などをしながら登下校の安全パトロールをして、その活動日数に応じて、ある程度予算をとってインセンティブをし、ウィンウィンな仕組みを地域でつくられているという事例があります。

(委員)

託麻西、託麻南、託麻東、託麻北、長嶺あたりでおっしゃるとおり「ちょこぼと」、ちょこっとパトロールという、赤いビブスを着て自分の健康を保持増進されている時間帯を児童の登下校時にあわせて頂く、とてもいい仕組みです。託麻西小学校はPTAがございません。熊本市では本校のみですが、恐らくすれば、これからもうちょっと増えてくると思います。先ほどありましたこども会については、70数年前の戦後の日本と今の暮らしが違うというのも明確で、専業主婦であったお母さんたちにかかっていたいろんな負担に甘んじていたものが変わらなかったということです。一方でPTAがないことで、ちょこぼとさんに助かっているのは、いわゆるPTAによる朝や下校時の見守りがありません。あと、こどもひなんの家がありません。これは、市のPTA協議会に加入している、あるいは県のPTA協議会とつながっているというところで、かつてPTAがその担当の仕事をしていただいていたという流れがありましたが現在なくなっている状態。なくなってから3年経ちますが、何が起きているかという、何も起こっていないです。例えば不審者の事案が増えたとか。ただ、私がすごく感謝しているのは、恐らく地域の目が、PTAに限らずあるということだと思います。そのため、地域によってどれがベストかというのはありませんが、先ほどのアプリであったりとか、ビブスであったりとか、なにかしら行っている自分の健康保持増進する活動が誰かの健康を守って、安全を担保している。

本校区では、先日日曜日に5校の合同運動会がパークドームで開催されました。時代の流れとして、ネガティブな表現をすると単独で開催することが難しくなってきた。ただ、それでもやはり変化させていっている地域があって、それは非常にモデルになっていると思います。何のためかって言ったときにこの地域の運動会にとってもすてきなところは、本当に運動に親しんでないお子さんたちが来るんですね。もちろん、運動大好きな子も来ます。ですが、そこに行かなきゃいけないので、親と一緒に行くので、親の力も必要ではあるんですけどそこにつながりが生まれ、私も今回いろんな校区の方と顔見知りになさせていただきました。年

に 1 回のイベントですが、これもつながりだと思います。一方でアプリを使いながらこどもたちが小学校の前の公園を散歩できるといったゲーム的なアプリが欲しいなとか、公園と公園をつなぐランニングロードやサイクリングロードなど発想すれば、そんなに大変なことをしなくても、既存のハードでより効果的な動きを生み出すことができるのではと思います。我々はそういうビブスを着て走っていただいたら、こどもたちの安全を担保できるので、持続可能でとてもいいことですよね。もう働いているお父さんお母さんに、当番です、立ってくださいと言っても誰にとってもメリットありません。行きたい人が行ってくれるとお互い笑顔で本当に心の健康につながっていくなと思っております。

(会長)

ありがとうございました。いろいろな情報をいただきました。安心安全はスポーツをする上でとても重要なことであると考えております。ありがとうございます。

(委員)

私は 4 人の母親ですが、みんな習い事をさせていまして、大体 1 人当たり 3 万くらいかかっています。習い事をするのは、部活とかクラブとかがないので、こどもたちの体力の心配もあって習わせているというのもあります。先ほどお話があったように、運動会があっても誰も出ません。役員の保護者が全員こどもを引っ張り出しても足りなくて、電話したり御近所さんに話をしたりして開催ができました。グラウンドについても、中学校のグラウンドを借りて安全面等を確認しやっと開催できました。いつもよりは少ない人数でしたがこどもたちも芸能人のように引っ張りだこになっておりました。お母さんお父さんたちについては、改めて健康を意識した方が多いのではと思いました。

市政だよりの公民館講座を何件か請け負っており、筋トレクラブといって高齢者さん 100 名くらいの体操指導に行っていますが、大体 30 名の講座で 90 名応募があり、今後も 3 月まで指導に当たる予定です。運営まで全部自分ですと家のことや仕事のことでパンクしてしまうため、運営を請け負ってくれる方がいらっしゃるだけですごく助かります。また、介護サポーターを取得し、体力測定のお手伝いに行った際、心の中でコミュニケーションがととてもつながる場で、近所の方の中でもお話が盛り上がりとても有意義な時間になりました。体力測定も自分のためであり、地域の方がお手伝いに来られるというのもとてもいいつながりだなと思いました。

自閉症などの障がい者の 1 年から 6 年生までのクラスを 1 度ダンス指導に行った際、とても楽しく参加していますが、やっぱり集中力がなく危なかったりするので、1 人での指導は難しく、サポーターが絶対必要です。支えてもらう人はとても大事だと思いました。誰でもできるサポートに関する養成講座の敷居をさげていただくと、サポーターは増えていくのではないかと思います。

(会長)

はい。ありがとうございます。体験する場に参加していただくということと人材育成において支える人を育成するということですね。そのような視点を頂戴したかと思います。

(委員)

大事なのは具現化することだと思います。作ることが目的でなく、暮らしが変わることが目的であって、そうなったときに、どうやってアウトプットしていくのか、周知していくのか、はたまた気が付いたら使っていたものになる、例えばアプリや WEB、あるいはイベント、その辺りのアウトプットの仕方や可視化していくコンテンツなどをどう考えていくのかと。手っ取り早いのは WEB を中心としたものになっていくのかもしれませんが、高齢の方であったりするときにはまたちょっと違うものになるのかなと。本人から出る指針とした広報活動なのかと思っております。簡単に言えば、しっかり具現化させる必要があるということです。他都市と比べて、熊本がスポーツに関わる人口が多いということだけでなく誰一人取り残さない、そんな熊本市のスポーツマスタープランであるといいなと思っているところです。

(事務局)

ありがとうございます。

今回このプランを策定し、今後具体的な取組を、我々だけではなくほかの部署を含め全体で考えていきます。状況については、この会議に年に 1 回御報告をしながら、やれていること、やれていないことをお示しはできればと考えているところです。中間年に見直しを考えておりますのでその辺りで、実際の取組進捗結果についてしっかり検証することが必要かなと思っています。また、個々の事業につきまして委員がおっしゃったように、1 個 1 個やれたことについてはぜひ積極的に P R、例えば WEB の活用など、いろんな媒体でお示しをできればと思っています。以上でございます。

(会長)

ありがとうございます。

先ほど委員からもありましたこどもに向けた広報や周知についてご意見をいただいております。きめ細かな市民への周知が求められるのかなと聞いておりました。よろしく願いいたします。今回もまた時間超過してしまいましたが本当にいろいろご意見いただきまして、ありがとうございました。それでは、本日の議事は以上とさせていただきます。進行を事務局へお返ししたいと思います。大変貴重なご意見をありがとうございました。